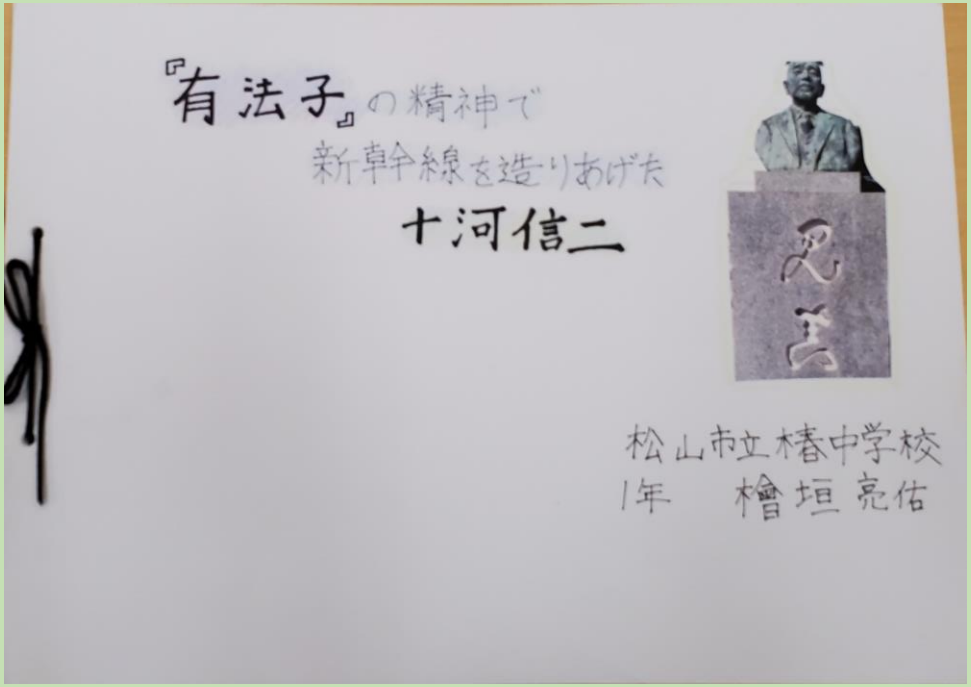
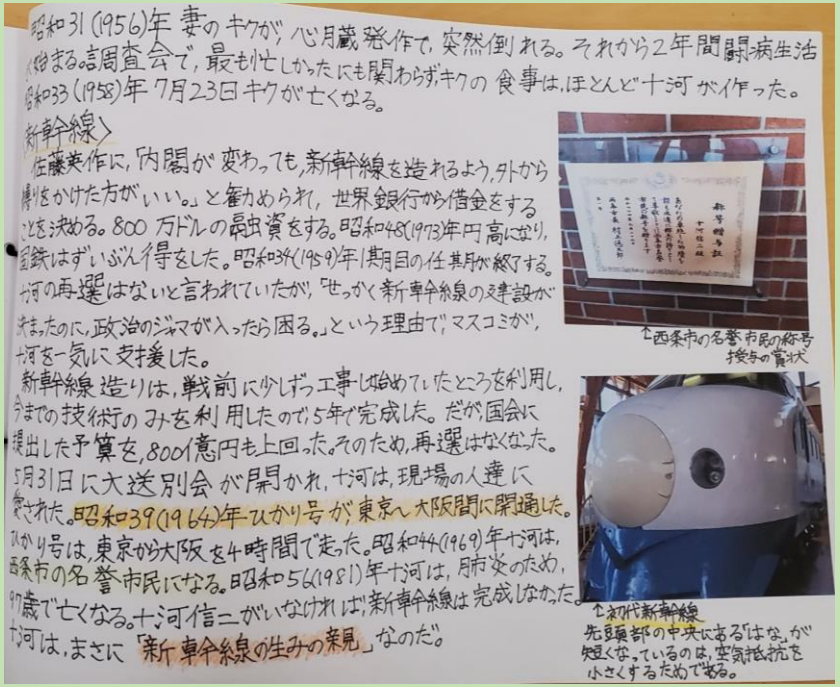
愛媛県教育研究協議会長賞　レポート部門

「『有法子』の精神で新幹線を造りあげた十河信二」

松山市立椿中学校　第１学年　檜垣　亮佑





昭和31(1956)年 妻のキクが，心月蔵発作で，突然倒れる。それから2年間闘病生活が始まる。調査会で，最もリセしかったにも関わらず，キクの食事は，ほとんど十河が作った。昭和33(1958)年7月23日キクが亡くなる。

〈新幹線〉

佐藤栄作に，「内閣が変わっても，新幹線を造れるよう，外から働きかけた方がいい。」と薦められて，世界銀行から借金をすることを決める。800万ドルの最出資をする。昭和48(1973)年円高になり，国鉄はずいぶん得をした。昭和54(1979)年1期目の任期が終了する。十河の再選はないと言われていたが，「せっかく新幹線の建設が決まったのに，政治のジャマが入ったら困る。」という理由で，マスコミが，十河を一気に支持した。

新幹線造りは，戦前に少しずつ工事し始めていたところを利用し，今までの技術のみを利用したので，5年で完成した。だが，国会に提出した予算を，800億円も上回った。そのため，再選はなくなった。5月31日に大送別会が開かれ，十河は，現場の人達に愛された。昭和39(1964)年ひかり号が，東京～大阪間に開通した。ひかり号は，東京から大阪を4時間で走った。昭和44(1969)年十河は，西条市の名誉市民になる。昭和56(1981)年十河は，肺炎のため，90歳で亡くなる。十河信二がいなければ，新幹線は完成しなかった。十河は，まさに「新幹線の生みの親」なのだ。

↑西条市の名誉市民の称号授与の賞状

↑初代新幹線
先頭部の中央にある「はな」が短くなっているのは，空気抵抗を小さくするためである。